

第10号

平成20年1月

おかやま 河川だより

吉井川特集



(吉井川河口付近)

岡山河川事務所長の光成政和です。この「おかやま河川だより」も第10号となりました。県内の様々な場所に置いておりますので、徐々に認知されてきたのではないかと考えております。皆さんに川を身近に感じて頂くため、岡山三川の情報を発信し、皆さんからの直接のお便り等も掲載し出来るだけご質問にお答えすることで、皆さんと情報のキャッチボールをしながらより良い川づくり、安全・安心のできる国土づくりを目指します。是非、皆さんの声をお寄せ下さい。

この広報紙は、県内市町村の広報コーナー、岡山河川事務所並びに各出張所に置いてあります。また、岡山県内の道の駅及び高速道のサービスエリアにも置いてありますので、ご自由にお持ち帰り下さい。



吉井川



旭川



高梁川

岡山河川事務所
国土交通省 中国地方整備局



吉井川

吉井川の 미래の川づくり

◆吉井川 ～その求める姿は～

吉井川のあるべき姿と、その実現のための取組についてまとめた「吉井川水系河川整備基本方針」について、現在策定作業中です。基本方針は治水、利水、環境の三要素から将来的な吉井川の基本的な方針を定めるものです。それでは吉井川の将来像をご紹介します。

河川名	国の管理区間	延長
吉井川	河口～新田原堰の少し上流まで	32.8km
金剛川	吉井川合流点～日笠川合流点まで	3.8km

治水上の課題と対策

◆これまでの治水対策

岡山県の東部を貫流する吉井川は、古来「東大川(ひがしのおおかわ)」と呼ばれ、流域が開けたのは岡山三川のうちで最も早く3世紀にまで遡ります。

河口にちかい、現在の岡山市西大寺は、奈良時代から平安時代にかけて旺盛な開拓が展開され、津山と西大寺を結ぶ高瀬舟の利用とあいまって地方有数の河港として繁栄しました。

本格的な治水事業は、岡山三川では最も遅く国の直轄事業としての昭和21年の吉井川改修工事となります。

◆吉井川下流部の堤防整備状況

和気郡和気町岩戸付近から河口までの国が管理する区間の堤防整備は、昭和20年の枕崎台風による大規模な浸水被害を契機として昭和21年以降つづけられ、現在までに全体延長の79%が完成しています。しかし、土砂で形づくられている堤防は、土質の状況によっては、洪水時の浸透水により漏水が発生し、堤防の決壊につながる可能性も考えられます。このため堤防の土質調査を実施し、浸透に対する安全性を調査しています。これまでに国が管理する区間の38%(H19.3時点)が調査済みで、そのうち12kmで堤防の補強が必要という結果が確認できました。

◆課題と今後の治水対策

① 堤防がなく、洪水流下能力の不足する箇所は築堤する必要があります。

➔ 対策：堤防の設置

② 河口部周辺は、ゼロメートル地帯*注が広範囲に存在し、平成16年の台風16号でも浸水被害を受けています。このため、台風接近により河川水位が高くなる恐れのある河口部周辺区間は高潮対策を行う必要があります。

➔ 対策：河口部高潮対策の実施

③ 土砂の堆積や樹木の繁茂により、計画の流量を流すための断面が不足している区間があります。

➔ 対策：河道掘削・樹木伐採

④ 堤防に「ジャリ」を使って作られていることから漏水する区間があります。

➔ 対策：堤防点検(実施中)

*注 ゼロメートル地帯とは、居住地側の地盤高さが、朔望(さくぼう)平均満潮位(新月と満月の前後に現れる各月の最高潮位を平均した水面)以下の地区を指します。

平成2年9月台風19号による浸水状況



瀬戸内市長船町



ブルーライン高架下日瀬西大寺線

利水 ～適正な水利用の推進～

吉井川の水は、農業用水、工業用水、水道用水などの生活用水に使われています。また、国管理区間で利用される約9割の水量を農業用水が占めており、岡山平野や児島湾干拓地に広がる農地を潤しています。このように、農業用水への利用量が多いことから、6～10月のかんがい期には河川流量が不足する傾向があります。

平成に入ってから、6年、14年、17年に取水が制約される渇水状態が発生しています。なお、苫田ダムの本格運用にともない、平成17年は取水制限には至りませんでした。また、苫田ダムは、岡山県知事からの要請を受けて海苔養殖増進のための緊急放流を平成18・19年に行いました。

今後も、適正な水利用が図られるよう関係機関、利水者等と連携を図っていく必要があります。



環境 ～守るべき自然との共生～



奥津溪

吉井川上流部は、氷ノ山後山那岐山国定公園・湯原奥津県立自然公園に指定され、渓谷特有の変化に富んだ景観を有しており、なかでも、苫田郡鏡野町の奥津溪は国の名勝に指定されています。また、源流付近には若杉原生林や後山の天然林があり、自然度の高い貴重な地域のひとつです。この清流には、アマゴ・カジカタカハヤ・オオサンショウウオ・カワセミ・ムカシトンボなどが生息しており、良好な環境を維持しています。

津山盆地に流入するあたりから流れが平坦になる中流部は、アカマツ群落、コナラ群落が分布し、アユ・オイカワ・コイ・フナ・カワムツ・オヤニラミ・イモリなどが生息する里山的な田園風景が広がります。

和気町で金剛川と合流すると、川幅は一層広くなり河原や中州が出現する下流の様相を呈しつつ、児島湾に注ぎます。河川敷にはツルヨシ群落や竹林が広がり、アサザ、ヒシモドキ、タコノアシ、カワチシャや、アユ・オイカワ・サツキマスのほか、アユモドキ・スイゲンゼニタナゴ・ダルマガエルが生息し、鴨越堰の上流はカモ類の集団越冬地となっているなど多種多様な生物の生息環境となっており、この良好な自然環境の保全に努める必要があります。特に、国の天然記念物であるアユモドキは、地元自治体、NPO団体、地元企業をはじめ、岡山河川事務所などが保護増殖活動をしています。

なお、中下流部では、ブルーギル・オオクチバスなどの外来種が生息しており、生態系への影響が懸念されます。



オオサンショウウオ



スイゲンゼニタナゴ

河川利用 ～適正な利用のために～

吉井川には良好な自然環境を有している箇所が多く、自然を利用した遊び場や自然が体験できる場所を選定し、熊山水辺楽校と金剛川水辺楽校を整備しています。また、河川敷にはレクリエーション、スポーツ、いこいの場としてランドや公園等も整備し、多くの方々に利用されています。

しかし、一方では河川にゴミ等の不法投棄も多く、下流域ではプレジャーボート等が不法に係留され治水上の支障となることも懸念されます。このため、関係機関との連携により定期的な清掃活動を行ったり、プレジャーボート等の不法係留については撤去等の対策を進める必要があります。



金剛川水辺の楽校

第1回 吉井川瀬戸地区自然再生協議会開催

河川においては、植物、動物、魚類、昆虫等と多様な生物の生活が営まれています。しかし近年、貴重種の減少や外来生物の増殖等、生態系において様々な課題が顕在化しています。

河川事業を実施する上で、こうした課題を解決するには、各分野の専門家の方々のご意見をいただき、反映させることが重要となります。また、地域の歴史やその地域特有の生物種との関係を理解したうえで、住民の方々のコンセンサスを得て事業を進めることも重要です。

このため、岡山河川事務所では、吉井川の中流域における国管理区間において、「河川環境の整備と保全」を目的に、貴重種であるアユモドキの生息環境を再生するため第1回目の「吉井川瀬戸地区自然再生協議会」を平成19年11月6日に開催しました。

委員の方々には、様々な観点から議論いただくために、魚類、植物、河川工学の学識経験者及び研究者、地元行政、地元役員の方々に参画いただきました。

今回は第1回目であり、現地視察の後、協議会ではアユモドキの生息状況について、2年間にわたる調査結果と確認場所の化学的、物理的な生息環境及び外来種の確認状況について報告しました。

また、現在の課題では(図参照)、貴重種が減少した理由についてダムによる流況の平準化、圃場整備による水路のコンクリート化、遡上魚においては、堰などの設置により環境の連続性が阻害されたこと、外来種の侵入などが主な要因としてあげられ、これらの対策が必要であることを報告しました。

最後に、今後の計画として、産卵場の減少、隠れ場の減少、移動経路の確保等に対する対策を自然再生の目標として位置づけ、以下の整備イメージ(図参照)を紹介し、今後、たくさんの意見をもとに中流域の自然再生を図っていきたいと考えています。



協議会の様子



アユモドキ

一時的水域の減少

産卵場の減少

物質的構造の単純化

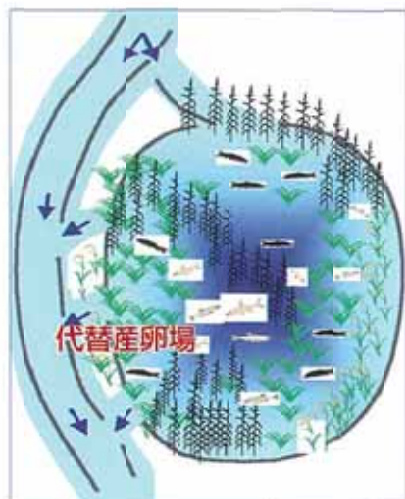
隠れ場所の減少

移動経路の分断

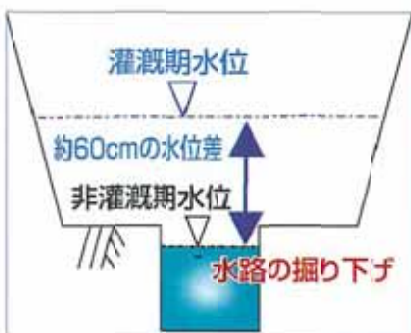
生息域の孤立

天敵の増加

捕食圧の増加



代替産卵場の整備



移動経路の確保



隠れ場所の整備

吉井川 乙子地区での堤防整備工事を紹介します。

乙子地区では洪水から地域を守るため、平成16年度から堤防整備を実施しています。H19年度も引き続き堤防及び護岸の整備を促進しており、8月までに整備区間内の平均満潮位までの盛土工事が完了しました。

11月中旬からは堤防下の軟弱地盤を改良する工事を実施しています。

整備状況(整備区間下流部から)



みんなのVOICE

紹介コーナー

おかやま河川だより第3号で皆様の洪水経験を募集したところ沢山の経験談をお寄せいただきました。誠にありがとうございます。一部でありますがお紹介させていただきました。貴重な経験談をありがとうございました。

私の洪水経験

昭和9年9月21日の朝は前夜の風雨がやみ穏やかな朝だった。父が山間部がだいぶ降ったようだから水が出るかもしれないと言った。学校も休みになり途中帰宅。しばらくして相生橋が落ちたと聞き姉と旭川東岸に見に行く。橋は半分落ち濁流が渦巻いていた。帰る途中、三動小学校の北の用水を隔てた家は床上浸水になったと皆2階に上がっていた。帰宅して自宅の北の下水からチョロチョロ水が出てきた。水道水を出しっぱなしにして水瓶、鍋、やかんと溜めこむ。水は低い方から徐々に道にあふれてきた。2階に荷を上げ畳も上げる。2階に避難。階段の上から2段目まで浸水した。午後、和船で炊き出しのおむすびが配られ、2階の窓から籠を出し受け取る。南北の道の水の流れはすごく、戸棚や家具が流れてきた。不安な夜を過ごした翌朝、水は引いていた。水が引くとき泥と水を掃き出さないといけないと両親は朝早く掃き出したようだ。私が8歳の時でした。あとの掃除は大変でした。(岡山市浜野)

トピックス

防災・減災フォーラムを開催しました。

10月30日(火)に岡山市柳町 さん太ホールにおいて、「防災・減災フォーラム2007in岡山」を開催しました。基調講演として、兵庫県豊岡市の中貝市長から、「あの水害を忘れない～平成16年台風23号の経験から～」と題して、行政のトップとして災害対応したこと、反省すべきことをお話しいただきました。また、岡山河川ライブラリー創刊号「昭和9年室戸台風災害の記録」の紹介、そして市民、企業、行政の代表の方にご参加頂いたパネルディスカッションを行いました。

この開催を通じて、防災・減災を一層進めるためには、市民一人一人の意識の向上、防災教育、コミュニティ活動の重要性、企業の災害時の早期復旧による社会貢献の必要性など、いろいろな意見を頂くことができました。(若井)



中貝豊岡市長による基調講演

旭川支川砂川(国代行施工区間)改修記念式を行いました。

11月11日(日)、国土交通省岡山河川事務所・岡山県主催により百間川支川砂川(国代行施工区間)改修記念式を地元関係者をはじめ、地元選出の国会議員方々など約60名の出席により挙行了しました。

本式典は、百間川の支川砂川で国が代行して改修した工事の完成を契機として、砂川改修の治水効果及び百間川改修事業について知っていただくとともに、地元の皆様に長期に渡り協力いただいた感謝の気持ちを表し行ったものです。

式典では、国会議員など来賓7名の方から祝辞を頂きました。また、式典に引き続き、地元代表者や国会議員らにより記念植樹を行い、参加者が見守る中、3本のソメイヨシノが植えられました。



記念植樹の様子

旭川流域交流シンポジウム・旭川源流の碑建立イベントが開催されました。

11月17、18日に、「2007旭川流域交流シンポジウム」と「旭川源流の碑建立イベント」が岡山市の牟佐地区で開催されました。

17日に開催された「旭川流域交流シンポジウム」では、「旭川流域ネットワーク(AR-NET)」や「太戸(たいど)の滝を守る会」からの活動報告と基調講演、「旭川らしさ・旭川のあるべき姿を探る」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、川と人びとの関わりの中での、旭川のあるべき姿について参加者全員で考えました。

翌日の18日には、旭川の支流の一つである石原川の「太戸の滝」の近くに、流域で11本目となる「旭川源流の碑」が無事建立され、来年建立予定の美咲町境地区の代表者へ通行手形が引き継がれました。



建立された源流の碑の前で記念撮影

瀬戸内バルーンフェスティバル2007に参加しました。

11月23日(金)~25(日)にかけて瀬戸内市邑久町豆田地先(吉井川河川敷)で瀬戸内バルーンフェスティバル2007が開催されました。

岡山河川事務所のブースでは、パネル展示、川に生えている竹木を使った木工クラフト、竹鉄砲による的あて、吉井川にすむ水生生物を紹介したミニ水族館などを行いました。

(松浦)



木工クラフト



川面に映るバルーン

高梁川流域クリーン一斉行動2007が開催されました。

11月25日(日)、高梁川流域連盟の主催により、高梁川流域クリーン一斉行動2007が実施されました。この日は三連休の最終日で早朝からの開催にもかかわらず船穂橋左岸の河川敷には約400人(高梁川水系全体で約1,400人参加)の方々が、高梁川を美しい川にしようという思いで参加されました。

参加された方々により次々に食品トレイ、ビニール袋、空き缶、タイヤ、テレビ等の大型ゴミを回収され、草むらに散乱していたゴミはあっという間に無くなり、川を綺麗にしたいという皆さんの思いが強く感じられました。

(山川)



清掃活動

みんなのVOICE



岡山河川事務所では皆様からのご意見・ご質問を頂き「VOICE」のコーナーでできるだけご紹介・お答えします。積み込みのはがきでご意見を頂ければと思います。

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所
みんなのVOICE係

〒700-0514 岡山県岡山市鹿田町2丁目4番36号
Tel.086-223-5101(代表) Fax.086-222-7835
ホームページ <http://www.okakawa-milit.go.jp/>